

日本で生活する人々向けの日本語教育の内容に関する一考察

ードイツ語教科書“*Aussichten A1.1*”からのヒントー

About the contents of learning Japanese language for immigrants
ー Hints from the German language textbook “*Aussichten A1.1*” ー

足立 祐子

This paper aims to analyze the German-language textbook for immigrants and tries to apply the experiences in Japanese-language education.

With the increase of the immigrants in Japan, Japanese textbooks for the daily life have been developed in Japanese language education. However, the substance of the textbooks is still under-developed. In comparison, a compulsory integrated German language leaning course of for immigrants has been introduced since 2005. “*Aussichten A1.1*” is the German textbook used for an integrated course in Wiesbaden community universities. “*Aussichten A1.1*” provides various hints to Japanese-language education;

1. A learner can communicate more smoothly by emphasizing making interpersonal relationship;
 2. The contents which are closely connected with learner's life tends to lead to the interest of the learner.
 3. It seems to be helpful for the sustained leaning by more focusing on the contents rather than grammar.
-

1. はじめに

本研究は、ドイツ連邦共和国（以下、ドイツと略す）で、移民対象のドイツ語教育で使用されている教科書“*Aussichten A1.1*”（Klett社 ISBN：978-3-12-676205-2）を参考に、日本に定住している日本語を母語としていない人々向けの日本語教育の内容について検討することを目的としている。本稿では、その途中経過について述べる。

日本に在住する外国人に対する日本語教育の内容を検討することが本研究の目的であるが、移民対象のドイツ語教科書を分析する理由は、ドイツと日本の外国人受入れ状況が似ているからである。ドイツは、アメリカ合衆国やオーストラリアなどといった移民国家と異なり、長い間「ドイツは移民国ではない」と主張しつづけてきた国であった。しかし、第二次大戦後、労働力不足を補うために、トルコ共和国をはじめとするヨーロッパ域内や地中海沿

岸諸国と雇用協定を結び多くの外国人労働者を迎え入れてきた (Gastarbeiter)。また、第二次世界大戦等が理由で東欧および中東欧に住んでいたドイツ人をドイツ国民としてドイツに受け入れたが (Aussiedler)、これらの人々もドイツ語が十分使えずドイツ語教育が必要な人々であった。このようなドイツの状況は、日本の技能実習制度や中国帰国者受入れの状況とよく似ているといえる¹。しかし、ドイツは1990年代以降、外国人排斥の問題等²があり、国内で社会的統合を促進しようという動きが高まるなか、2001年7月に移民政策のあり方に関する報告書が発表された。その内容は具体的な移民受け入れ案であったが、特に注目すべき点は移民のドイツ社会への融和で、具体策として最低600時間のドイツ語および30時間のオリエンテーション教育を実施するという統合コースであった。その後さまざまな経緯を経て³、2005年に新移民法が発効することとなった。これ以降、ドイツは移民受け入れ国として紆余曲折はありながらも、特に統合コースにおける移民対象のドイツ語教育に力を入れ現在に至っている。

一方、我が国は少子高齢化にともない外国人材活用⁴が今後よりいっそう増大すると予測されている。ドイツと異なり日本は、難民や中国帰国者等、日本政府が関与して受けれた人々以外は、積極的な日本語教育環境整備を実施してこなかった。が、2007年文化庁の文化審議会国語分科会のなかに「日本語教育小委員会」が設置され、「生活者としての外国人」に対する日本語教育についてその目的や目標が検討され、2010年には日本語教育の標準的なカリキュラム案が発表された。その後、標準的なカリキュラム案を活用するためのガイドブックや教材例集、「生活者としての外国人」に対する日本語能力の評価法、指導力の評価について、日本語小委員会で検討された成果物を作成し公表した。しかし、これらは、シラバスや指針であり、具体的な教科書はまだできていないのが現状である⁵。このような理由から日本と在住外国人状況が似ているドイツで使用されている移民向けのドイツ語教科書の内容を分析することで、今後の日本における「生活者としての外国人」の日本語教育の内容につ

¹ さらに、日本は農村等における嫁不足解消のため、集団見合い等を利用して、日本人男性と結婚するフィリピン、韓国、中国等からの女性も多い。

² 1992年にゾーリンゲンやメルンで起こったトルコ人家族虐殺等。

³ ドイツ移民政策の変遷と移民法成立のいきさつについては、近藤潤三『移民国としてのドイツ—社会統合と平行社会のゆくえ』(木鐸社 2007年)、前田直子「補論 ドイツ移民政策の転換における『専門官』の役割について」『移民・難民・外国人労働者と多文化共生—日本とドイツ/歴史と現状』(有志舎 2009年) pp.199-231等に詳細がある。

⁴ 具体的には、外国人福祉介護士や看護師の受け入れに関するEPA (経済連携協定) や外国人技能実習制度、オリンピック関連による建設就労者受入れ事業等を指す。

⁵ 日本語教育小委員会が公表した一連の成果物は、県市町村などの行政関係者や市民レベルでボランティアとして日本語を教えている日本語教室関係者に活用を呼びかけているものである。つまり、十分な予算がないため、日本語教育を専門とする教師が日本に在住する移民的な背景を持つ人々に教えるというしくみにはなっていない。年度が異なるため正確な比較はできないが、ドイツでは2007年度に移民向けドイツ語コースの予算が1億4000万ユーロ計上 (約187億7680万円; 2015年1月のレート) されたが、日本は生活者としての外国人に対する日本語教育は2010年度予算で2億1500万円だった。

いて示唆を得たいと考える。

2. 統合コースについて

2005年からの新移民法に規定されている統合コースは、ドイツ語能力を習得する語学コースとドイツの法律や歴史・文化などを知るためのオリエンテーションコースからなる。統合コースがはじまった当初は、語学コース600時間、オリエンテーションコース30時間⁶であったが、現在の語学コースは最大900時間まで受講可能で、オリエンテーションコースは45時間となっている。また、ムスリムの女性たち、読み書きが弱い人たち、若者たち等、特徴的なグループに分けての特殊クラスもあり、300時間の復習コースに参加することもできるので最大1200時間のドイツ語の授業を受講することが可能になっている⁷。

語学コースは基礎コースと発展コースに分かれ、基礎コースは、欧州評議会によって正式に公開された枠組みである、ヨーロッパ言語共通参照枠（Common European Framework of Referenc for Languages, CEFR、ドイツ語では *Gemeinsamer Europäischer Referenzrahmen, GER*）のA1・A2レベル到達を目ざし、発展コースはその上のB1レベルを目ざす。A1およびA2レベルでは日常生活に不自由しない基礎的なドイツ語を習得する。また、B1レベルについてゲーティンスティチュート（Goethe-Institut）では、以下のように定義づけている⁸。

- ・明確な標準的なドイツ語であれば、仕事や学校、余暇など日常的な事柄についてのドイツ語の発言や文章が理解できます。
- ・旅行中に会える様々な場面で必要な対応ができます。
- ・身近なテーマであれば、簡潔かつ筋道をたてて意見を述べることができます。
- ・自分の経験や夢・希望・目標について話したり、書いたりでき、その論拠を説明できます。

前田（2012）には統合コースに関する詳細があり、統合コースで使用されている教科書についてはHueber出版の『*Tangram*』、『*Schritte*』、Langenscheidt出版社の『*Berliner Platz*』等々の教科書が挙げられている。本稿では、生活に必要な日本語教育の内容について考察を行うため、入門レベルを扱っている『*Aussichten A1.1*』を分析した。『*Aussichten A1.1*』は、前田（2012）には紹介されていないが、2009年に出版されたもので、統合コースの実施機関であるヴィースバーデン市民大学（ヘッセン州）で2014年現在使用されているものである。筆者が2014年9月にヴィースバーデン市民大学で統合コースのクラスを担当している教師に

⁶ 筆者は岩手大学の松岡洋子氏が代表の科研の調査でオリエンテーションコースを見学したことがあるが、講義以外に町に出てゴミ処理場等を見学する体験型のプログラムもあった。

⁷ 前田（2012）pp.154-161参照

⁸ <http://www.goethe.de/lrn/prj/pba/bes/gzb/jaindex.htm>

『Aussichten A1.1』の内容等について質問したところ、入門レベルであるのにもかかわらず語彙量が非常に多い、学習項目にストラテジーというカテゴリーがはいっている内容は、学習者の生活と関連性の強いものが多い、という回答があった。

3. 『Aussichten A1.1』の構成

本教科書は、CEFRのA1レベルの前半を網羅し、各課は、①行動範囲、②コミュニケーション、③語彙と構造、④ストラテジー、⑤音声という5つのカテゴリーで構成されている。以下は4ページから7ページに記載されている目次の部分である。

第1課 Alles neu 新しくすべてを

A Ankommen 到着する

B Erste Kontakte 第一印象（ファースト・コンタクト）

C Die neue Adress 新住所

①行動範囲：

- ・ private Kontaktaufnahme 私的な連絡のやり取り
- ・ Auskünfte auf dem Amt 公での情報（回答・案内）

②コミュニケーション：

- ・ sich begrüßen und verabschieden 歓迎の挨拶と別れの挨拶
- ・ sich und andere vorstellen 自己紹介と他者紹介
- ・ Personenangaben machen 自分のことについて述べる
- ・ du und Sie unterscheiden du（君）とSie（あなた）を区別する
- ・ ein Wort buchstabieren 単語をつづる
- ・ bis 100 zählen 100まで数える

③語彙と構造：

- ・ Namen von Personen, Ländern, Kontinenten 個人や国、大陸の名前
- ・ Zahlen von 1-100 1～100の数
- ・ Alphabet アルファベット
- ・ erste Nomen mit dem bestimmten Artikel 定冠詞のついた最初の名詞
- ・ erste Verben im Präsens 現在形の最初の動詞
- ・ W-Fragen und Aussagesatz Wからはじまる疑問文と平叙文

④ストラテジー：

- ・ Geräusche helfen beim Hörverstehen 物音が聞き取りを助ける
- ・ nachfragen, wenn man etwas nicht versteht 何かわからないときに問いかける
- ・ schwierige Wörter buchstabieren 難しい単語をつづる

⑤音声：・ Wortakzent 単語のアクセント

日本で生活する人々向けの日本語教育の内容に関する一考察
ードイツ語教科書 “Aussichten A1.1” からのヒントー

第2課 Von früh bis spät 朝から晩まで

A Hallo, wie geht's? こんにちは、調子はどう？

B Der erste Arbeitstag 最初の仕事日

C Nachtarbeit – ein Problem? 夜間労働 — それは問題？（何か問題があるの？）

①行動範囲：

- private Kontaktaufnahme 私的な連絡のやりとり
- Orientierung am Arbeitsplatz 職場での位置確認
- Organisation des Alltags 日常生活の組織（構成）
- Vorschriften im Haus 家の規則

②コミュニケーション：

- über das Befinden sprechen 体調について話す
- jemanden offiziell vorstellen 誰かを正式に紹介する
- den Beruf angeben 職業を述べる
- über die Arbeit sprechen 仕事について話す
- einen Dienstplan verstehen 勤務予定表（計画）を理解する
- über den Tagesablauf sprechen 一日の経過を話す
- ein Problem benennen 問題を挙げる

③語彙と構造：

- Wochentage 曜日
- Berufe, Arbeitsorte, Tätigkeiten 職業、職場、仕事（活動）
- unbestimmter und bestimmter Artikel 不定冠詞と定冠詞
- Temporalangaben : Tageszeiten und Wochentage 時制指示(成分)：1日の時間区分と曜日
- das Verb *haben* 動詞*haben*
- Ja- / Nein-Frage はい/いいえ疑問文
- Verben im Präsens 現在形（現在分詞）の動詞

④ストラテジー：

- Vorinformationen nutzen 事前情報を利用する
- Internationalismen helfen 国際関係（協力）を助ける
- Schlüsselwörter im Text suchen テキスト中のキーワードを探す

⑤音声：

- Satzmelodie : Fragen 文の抑揚：疑問文
- Vokale : kurt und lang 母音：短音と長音

第3課 Immer was los! いつも何かがおこる！

A Das ist mein Leben! これが私の生活です！

B Zeit für die Mittagspause 昼休みのための時間

C Endlich Wochenende! やっと週末！

①行動範囲：

- soziale Kontakte 社会的なやりとり
- Pausenregelung am Arbeitsplatz 職場での休憩規定
- Wochenendplanung 週末の計画

②コミュニケーション：

- über die Familie sprechen 家族について話す
- Beziehung ausdrücken 関係を表現する
- Nationalität und Sprache angeben 国籍と言語を述べる
- die Uhrzeit sagen 時刻を言う
- Aktivitäten am Wochenende planen 週末の活動を計画する
- Wunsch ausdrücken 希望を表現する
- sich verabreden 会う約束をする

③語彙と構造：

- Familienbezeichnungen 家族の名称
- Freizeitaktivitäten 余暇の活動
- Genitiv-s bei Personennamen 人名における2格の-s
- Nomen im Plural 複数形の名詞
- Possessivartikel : *mein(e), dein(e), ...* 所有冠詞 : *mein(e), dein(e), ...*
- Temporalangaben : Uhrzeit 時制指示 (成分) : 時刻
- Verneinung : *kein(e), nicht* 否定 : *kein(e), nicht*
- *möchte* + Verb im Infinitiv *möchte* + 動詞の原形

④ストラテジー：

- auf Emotionen achten 感情に注意を払う
- Bildinformationen nutzen イメージの情報を利用する
- selektiv hören und auf bestimmte Informationen achten
選択的に聞き取り, 明確な情報に注意を払う

⑤音声：

- Aussprache *ö* und *ü* *ö*と*ü*の発音

第4課 Sonst noch etwas? ほかに何かありますか?

A Was essen wir heute? 今日は何を食べましょうか?

B Der Markt ist mein Leben 市場が大好きです (市場は私の生活です)

C Hier gibt es alles ここには何でもあります

①行動範囲：

- Nachbarschaftshilfe 隣人の助け
- Organisation des Arbeitstages 仕事日の組織 (構成)
- Einkauf von Alltagsprodukten 日用品の買い物

日本で生活する人々向けの日本語教育の内容に関する一考察
ードイツ語教科書“*Aussichten A1.1*”からのヒントー

②コミュニケーション：

- Lebensmittel benennen 食料品を挙げる
- etwas ausleihen 何かを貸す
- über Vorlieben sprechen 特に好きなものを話す
- einen Arbeitstag beschreiben 仕事日を記述する
- eine Kurznachricht verstehen メモを理解する
- sich im Supermarkt orientieren und einkaufen
スーパーマーケットで位置確認して買い物をする
- Angebote und Preise verstehen 特売品と値段を理解する
- an der Kasse etwas reklamieren レジで何か苦情を言う

③語彙と構造：

- Lebensmittel und Alltagsprodukte 食料品と日用品
- Preise und Mengenangaben 値段と数量指示（成分）
- Negativartikel im Nom. : *kein, keine* 1格における否定冠詞：*kein, keine*
- unbestimmter und Negativartikel 不定冠詞と否定冠詞
- Nullartikel bei Lebensmitteln 食料品の無冠詞
- *es gibt* + Akkusativ *es gibt* + 4格
- trennbare Verben 分離動詞
- das Verb *mögen* 動詞の*mögen*
- Lokalangaben : *rechts / links, ...* 方向指示：右, 左
- Personalpronomen im Text : *er, es, sie* テキストにおける人称代名詞*er, es, sie*

④ストラテジー：

- mit W-Fragen einen (Hör-)Text erschließen
Wからはじまる疑問文を用いて（聞き取り）テキストを推定する
- Textstruktur erkennen テキスト構成に気づく
- Weltwissen nutzen 周知の知識を利用する
- selektiv hören und auf bestimmte Informationen achten
選択的に聞き取り，明確な情報に注意を払う

⑤音声：

- E-Laute Eの音

第5課 Suchen und finden 探す、見つける

A biete Kinderbetreuung ホストファミリーを探す

B Der Deutschkurs ドイツ語クラス（講座）

C In der Stadt unterwegs 町中で

①行動範囲：

- Arbeitssuche 求職

- ・ Kommunikation im Unterricht 授業でのコミュニケーション
- ・ Orientierung im öffentlichen Raum 公共の場での位置確認

② コミュニケーション :

- ・ Personen beschreiben 人物を記述する
- ・ Fähigkeiten, Interessen und Möglichkeiten angeben 才能、興味、可能性を挙げる
- ・ die Meinung sagen 意見を言う
- ・ im Kurs kommunizieren クラス（講座）でコミュニケーションをとる
- ・ öffentliche Gebäude benennen und ihre Lage angeben
公共施設を挙げて、その位置を述べる
- ・ Verkehrsmittel benennen 交通機関を挙げる
- ・ nach dem Weg fragen und eine Wegbeschreibung verstehen
道を尋ねて、道の説明を理解する
- ・ Anweisungen geben 指示を与える

③ 語彙と構造 :

- ・ Farben und Eigenschaften 色と性質（特性）
- ・ Verkehrsmittel 交通機関
- ・ Modalverb *können* : Fähigkeiten und Möglichkeiten 話法の助動詞 *können* : 能力と可能性
- ・ Lokalangaben : *in, an, auf, von, zum / zur* 場所の指示（成分） : *in, an, auf, von, zum / zur*
- ・ Imperativ (*Sie-* und *du-*Form) 命令形 (*Sie*と*du*の形)
- ・ bestimmter Artikel im Akkusativ 4格の定冠詞
- ・ das Pronomen *man* 代名詞 *man*

④ ストラテジー :

- ・ Schlüsselwörter im Text suchen テキスト中のキーワードを探す
- ・ Weltwissen nutzen und Vermutungen anstellen 周知の知識を利用し、予想をたてる

⑤ 音声 :

- ・ E-Laute : schwaches ə Eの音 : 弱音のə

4. 具体的な分析

1) ストーリー性

Kursbuch（メイン教科書）は、5課に分かれており、どの課も3つの場面（行動領域における私的な部分、職業的な部分、公的な部分）に沿ったまとまりから構成されている。語彙、文法、音声のための説明は、欄外に情報として（教科書では情報ボックスという呼び方をしている）挙げられている。また、各課の最後の2ページは、計画やゲーム、歌や詩が取り上げられている。

第1課を見ると、Lisa Vogelと彼女の息子であるMaxが車に乗って引っ越してくるところからはじまる。二人は新しい引っ越し先のアパートに着いて車を降りてアパートの隣人であ

日本で生活する人々向けの日本語教育の内容に関する一考察
—ドイツ語教科書“*Aussichten A1.1*”からのヒント—

るInes Mntesにあいさつしたり（私的な部分）、息子のMaxがスポーツクラブでPaulと友達になったり、Maxに引率してきたLisaもスポーツクラブの先生やPaulのお母さんと友達になったりする（公的な部分）という流れで展開していく。第1課は職業的な部分は出てこないが、第2課にはいると、Lisaは新しい職場に出かけるためアパートをでたところで、隣人のInesとばったり会いあいさつをするところからはじまる。第1課で学んだあいさつの復習をし、さらにLisaは新しい職場へ行きそこで自己紹介をする。また、Lisaの話が進むなかで、仕事についての説明がある。（*die Bäckerin, der Taxifahrer, der Ingenieur, die Psychologin, die Hausfrau, der Lehrer, der Dj, die Krankenschwester, der Kellner, der Arzt*）それは、日本語教科書によくあるような職業の名称の提示だけではなく、どんなところで働くのか、日中の仕事なのか夜の仕事なのか、また勤務は毎日なのか不定期なのか等、職業の内容についてかなり具体的な内容を扱っている。たとえば、ペアワーク（Partnerinterview）練習では、*Arbeiten Sie im Krankenhaus? / im Supermarkt? / im Hotel? / in der Schule? / zu Hause? Haben Sie viel Arbeit / viel Stress? Ist die Arbeit interessant oder langweilig?* 等の表現があらかじめ書いてあり、仕事がおもしろいか、ストレスがあるか、等のモデル文を使いながら学習者同士がお互いに質問し活動ができるようになっている。第2課で扱う行動範囲は、私的なやりとり、職場での地位の確認、日常生活の構成、家での約束ごとで、公的な部分として、アパートの階下の人の音楽がうるさいので苦情を言いに行く場面がある。このように、主人公であるLisaや息子のMaxが、私的場面、公的場面、職業的場面生きいきとまわりの人々と生活していく状況が描かれている。そして、LisaとMaxを取り巻く日常生活のできごとのなかで「聞く・話す」を中心に学習者が練習を行いながらドイツ語に親しみ学べるように工夫されている。

日本語の教科書でも、ある人物を主人公にストーリーが展開されているものもあるが、そのストーリーはあとから練習する文法項目に強く制約されているため、無理やり作られたような不自然さが残っていることが多い。また、その内容は、学習者との関連性も薄く、非現実的であることが多い。それに比べ、“*Aussichten A1.1*”は、一つの課が20近い項目のテーマに分かれており、らせん状的な流れでその項目に沿ってストーリーが展開されていくようになっている。学習者は、実際にそのストーリーで描かれている状況に沿って、そこで出てくる会話表現を登場人物に自分を投影して練習できるように工夫されている。

2) 文法の取り扱い方

文法は、「語彙と構造（*Wortschatz und Strukturen*）」という項目で取り扱われているが、上の3で見たように、項目としてはあまり多くなく、基本的な文法項目だけをとりあげている。語彙、文法、音声に関わるもので重要な言語的現象として本書が捉えているものは、欄外にスペースを設け（本書では 情報ボックス*eine Infobox*と呼んでいる）簡潔にまとめられて、視覚的にどこが重要かが一目でわかるように色分けされている。メインの教科書では、語彙も文法も聞きとり練習としてのCDには豊富に出てくるが、一つひとつを理解する必要はなく、重要なキーワード以外は聞き流し自然なスピードに慣れることを目的としていることが

うかがえる。しかし、本書は全部で208ページあるが、メインの教科書は99ページまでで、後半の100ページから185ページまではドリルブック (Arbeitsbuch) になっている。このドリルブックで学習者は語彙や文法や音声についてていねいに練習ができる。非常に特徴的なのは、すべてのドリルが、メイン教科書のストーリーの展開に沿ってそこで出てくる語彙、文法項目 (音声も) 連動していることである。メイン教科書で、新しい言語的現象を取り扱った場合 (主に情報ボックスで)、そこにはドリルブックの何番に対応するというように指示が出ている。たとえば、第3課で家族についてとりあげられているが、情報ボックスで、*Max is der Sohn von Lisa Vogel. Max ist Lisas Sohn. Lisa ist Max' Mutter.* 「～の息子」「～の母親」という「～の」について示されている。そして、ドリルブック第3課の1～2を見るように指示が出ている。指示されたドリルは、「～の」についての聞き取りや話す練習のタスク、さらに、家族は親戚に関して男性名詞なのか女性名詞なのかを分類して書く練習である。また、コラムとして、電話での会話がとりあげられており、電話で相手をフルネームで言うべきかどうかについて対人関係に関する解説がある。

このように、メインの教科書では、状況やストーリーを重視し、できるだけ簡潔で必要な項目だけ、文法をとりあげ、定着のための練習や全体の構造を意識した拡張練習に関してはドリルブックで取り上げるというようにはっきり区別されている。つまり、実際の授業において、クラスの力量や時間配分をドリルブックで調整できるようになっている。さらに、くり返しになるが、そのドリル練習もメインのストーリーからできるだけ離れないように細やかな工夫がなされていることがわかる。

3) ストラテジー

筆者は、移民対象のドイツ語教科書である、Langenscheid出版社の『Berliner Platz』をかつて内容を検討したことがあるが、この教科書には、ストラテジーに関する内容は盛り込まれていない。『Aussichten A1.1』の最初のページに、この教科書の使い方について解説があるが、ストラテジーに関しては、技能として一つひとつ練習するとあり、毎日のコミュニケーションが円滑に行うためのものとしている。以下に目次にあるストラテジーの部分だけを抜き出してみる。

- 第1課：物音が聞き取りを助ける、何かわからないときに問いかける、難しい単語をつづる
- 第2課：事前情報を利用する、国際関係 (協力) を助ける、テキスト中のキーワードを探す
- 第3課：感情に注意を払う、イメージの情報を利用する、選択的に聞き取り、明確な情報に注意を払う
- 第4課：Wからはじまる疑問文を用いて (聞き取り) テキストを推定する、テキスト構成に気づく、既に知っているの知識を利用する、選択的に聞き取り、明確な情報に注意を払う
- 第5課：テキスト中のキーワードを探す、既に知っている知識を利用し、予想をたてる

日本で生活する人々向けの日本語教育の内容に関する一考察
ードイツ語教科書“*Aussichten A1.1*”からのヒントー

難しい単語をつづることや国際関係を助けることと、テキスト中のキーワードを探すことを同じカテゴリーで考えていいのかどうかは今後、詳細に検討していかなければならないが、予測をたてたり、キーワードを探したりすることで、ドイツ語力の不足部分を補うことができるであろうし、語学学習そのものではなく、メタ認知の部分に学習者が意識をはらせるように、項目としてあげることには意義があると考えられる。既に述べたが、2014年9月にヴィスバーデン市民大学でこの教科書を使用して統合コースの学習者にドイツ語を教えている担当教員は、ストラテジーを授業で取り扱うのが初めてであると述べ、授業でどのように取り扱うか試行錯誤をしているということだった。

4) 対人関係に対する考え方

上の3点も、語学教科書として非常に特徴的な点だと考えるが、さらに、筆者が印象に残ったのは、対人関係についての内容が、第1課から練習問題に組み込まれている点である。第1課では、LisaとMaxの会話を聞きとる練習が13ページに出てくるが、質問は、LisaやMaxがどんな気分なのかを問うものであった。二人の顔の絵が書かれてあり、gut かschlechtか（機嫌がいいのか悪いのか）を答えるようになっている。このタイプの問題は、頻繁にあり、課を追うにつれて複雑な感情や会話の相手が何を思っているのか、何がしたいのかなど、予測することを学習者に求めている。

たとえば、日本語の教科書でも「～かもしれない」「～はずだ」等の表現を提示する際には、予測をすることを求めるような準備段階の練習が用意されていることがある。が、『*Aussichten A1.1*』では、教科書全体を通して、コミュニケーションの参加者がどのような気持ちなのか、また何をしたいと考えているか等について、学習者自身が考えるような工夫がなされている。

5. 日本語教育へのヒント

『*Aussichten A1.1*』は、Kursbuch（メイン教科書）、Arbeitsbuch（練習ドリル）から構成され、DVD、オーディオCDがついている。さらに、別冊に*Integration Spezial*という各テーマに沿った文法練習帳がある。メイン教科書はあくまでも、状況や意味にこだわり、学習者自身がLisaたちに自分を投影できるようになっている。日本語の教科書にも、たとえば『文化初級日本語』（凡人社）や『*Japanese for everyone*』（学研）のように全体を通してある人物が日本でさまざまなことを体験するように設定されているものもある。が、『*Aussichten A1.1*』にでてくる人々は、まるでドラマを見ているように生きいきと動き、状況が具体的に描かれている。また、練習ドリルもオーディオCDもすべて連動し、LisaやMaxに関わる人々があらゆるところ出てくるようにデザインされている。

決して日本語教育に限ったものではなく、他の外国語教育における教科書も、文法事項等、教えた事項が先にあり、その枠組みにのっとって、登場人物が場面の中でなんらかの行動をするようなスキットが作成されるのではないかと考える。が、日本に住んで生活することを考えると、今までの外国語教育の枠組みを破り、「生活」というものを全面にだした教育

内容が求められるのではないかと考える。

今回、『Aussichten A1.1』を分析し、強く感じた点は、この教科書の著者たちが、この教科書の学習者に対してただドイツで生活するために必要なドイツ語を教えるという考えではなく、ドイツ社会のメンバーとして受け入れるということを強く意識している点である。具体的には、職業に関わる内容が非常に多く取りあげられていること、ストラテジーに関して各課に練習問題が設けられていること、子育てに関わる内容が豊富であること、等がその根拠である。それは、ことばを教えるという立場を越え、社会教育のようなものも含まれているようにさえ感じられる。

まだ十分な分析は終わっていないが、『Aussichten A1.1』からのヒントとして言えることは、日本において移民的存在の人々に対して日本語を教える際に、ただ日本語ができればいいというのではなく、「共に暮らす」という発想が内容にどのように反映できるのかという点である。今後さらに分析を続け具体的な内容について検討を行う。

引用文献

前田直子 (2012) 「移民向け統合コースに関する一考察－オリエンテーションコースに参加して－」『獨協大学ドイツ学研究』(65) pp.153-186

本研究は科学研究費補助金基盤研究 (B) 「移住者と受入れ住民のコミュニティ形成に資する複言語コミュニケーションと人材育成」(研究課題番号: 24401025 研究代表者: 松岡洋子) の助成によりおこなっている。また、ドイツ語訳に関して羽下優子氏 (新潟大学大学院現代社会文化研究科) の協力を得た。